

大阪湾のタチウオは何を食べているのか？

水産研究部 水産支援グループ

■背景と目的

タチウオは銀白色の美しい見た目と食味の良さから水産重要種として扱われています。釣りの好ターゲットとしても知られ、特に大阪湾は「テンヤ釣り」と呼ばれる釣法発祥の地であり、全国的にも有数のタチウオ釣りのホットスポットです。

タチウオ漁獲量は全国的に減少傾向にあり、資源回復に向けて早急な対応が求められています。しかし、大阪湾では1970年代以降タチウオの生態に関する詳細な調査研究が行われていません。

そこで本研究では、近年の大阪府内におけるタチウオの漁獲状況を整理し、大阪湾タチウオの生態、特に食性を明らかにするため、大阪府内で水揚げされたタチウオの測定と解剖調査を行いました。

■調査の方法

○大阪府におけるタチウオの漁獲状況

府内の漁業協同組合から1989-2019年の底びき網漁業における月別の漁獲量データを収集し、1日1隻あたりのタチウオ漁獲量(CPUE)を算出しました。1989-2000年、2001-2010年、2011-2019年の平均CPUEを算出し、各年代の傾向を明らかにしました。

○大阪湾タチウオの食性

2018年11月から2020年6月に大阪府内の水揚げ市場で購入した625個体について魚体の大きさを計測し、解剖を行いました。体サイズ(肛門前長)によって小($\leq 220\text{mm}$)、中($220 \leq 270\text{mm}$)、大($> 270\text{mm}$)のサイズ帯に区分しました。消化管の中から出現した餌生物を分析し、サイズ帯ごとの餌生物重要度指数割合(%IRI; 割合が高いほど餌として重要)を算出しました。

■結果と考察

○年代別に見たタチウオの月別漁獲状況(表1)

- ・近年よく漁獲されるのは12月から2月
- ・1989-2000年に比べて漁獲量は大きく増加、特に冬季の漁獲が増加している
→冬季の海水温上昇等が原因?

○大阪湾でタチウオは何を好んで食べているのか?(表2)

- ・各サイズともカタクチイワシをよく食べている
- ・成長にともなって餌の好みが変わる?
小サイズ:魚のほかに甲殻類などもたくさん食べる
中サイズ:甲殻類の割合が減少し、魚が主体になる
大サイズ:ほとんど魚しか食べない
コノシロなどの大きな魚も食べるようになる



図1: 釣獲したタチウオと釣りに用いられるテンヤ仕掛け
赤線は肛門前長を示す

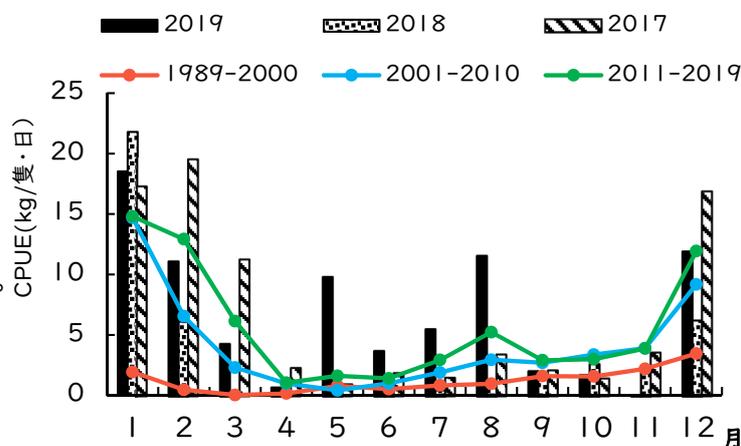


表1: 府内標本組合におけるタチウオCPUEの推移

	小サイズ (n=103)	中サイズ (n=254)	大サイズ (n=268)
○魚類			
カタクチイワシ	56.03	72.76	95.54
マイワシ	0.23	0.98	2.15
コノシロ	0.00	0.05	1.96
タチウオ	0.00	0.24	0.06
マアジ	0.00	0.01	0.08
ワニエン	0.00	0.00	0.06
シラス類	0.04	0.02	0.00
トカゲエン	0.00	0.00	0.02
ヒイラギ	0.00	0.00	0.01
ハタタテヌメリ	0.00	0.00	0.00
ハゼ科	0.00	0.00	0.00
不明魚類	0.40	0.64	0.08
○甲殻類			
ソコシラエビ	23.83	15.63	0.01
アキアミ	17.52	8.68	0.00
スベスベエビ	0.02	0.01	0.00
サルエビ	0.00	0.01	0.00
小エビ類	0.00	0.00	0.00
アカエビ	0.00	0.00	0.00
○頭足類			
ジンドウイカ	1.28	0.87	0.03
ミミイカ	0.47	0.01	0.00

表2: タチウオのサイズ別の餌生物一覧と%IRI